

美術作品を主体的に鑑賞し、作者の表現の工夫を感じ取ることができる生徒の育成

—造形的な要素に着目する教材の活用と、ねらいに迫る発問の工夫を通して—

図画工作・美術班 鎌田 崇人（中学校教諭）

現状

- ・作品から想像することや見方が分かることは楽しい。しかし、作者の気持ちを読み取ることは、難しい。
- ・自分なりに根拠をもって読み取ることはできている。



課題

- ・作者の表現の工夫などを感じるところまでは高まっていない。
- ・視点を焦点化し、作者の表現の工夫を感じられるような活動の工夫が必要。



そこで、「**造形的な要素に焦点化をはかる活動の工夫**」を行いました。

研究の概要

実践1「色から発見！」

第1学年1学期

題材のねらい

ルノワール「読書するふたり」
色彩に着目して、効果に気付かせ、作者の表現の工夫を感じ取れるようにする。

手立て① 教材の活用

教材

モノクロ図版とカラー図版の提示

1. モノクロのみの鑑賞
2. モノクロ図版とカラー図版の比較鑑賞



比較鑑賞

窓だったのか

絵が広く感じるな

手立て② ねらいに迫る発問

発問

「付箋紙のまとまりの中で、大事なと思う意見はどれだろう。」

1. 付箋紙のまとまりづくり
2. まとめたものから二つ選んで発表

描かれているものがはっきりした

表情から読書に集中する様子が分かった

奥行きを感じるようになった

結果

色彩に着目し、効果に気付けた。 **100%**
(実践前は20%)
色彩の視点から作者の表現の工夫について感じ取ることができた。 **6%**
(実践前は3%)

課題

成果

- ・教材を活用することで、生徒が主体的に造形的な要素に着目し、効果に気付くことができた。
- ・ねらいに迫る発問の工夫をすることで、造形的な要素の視点から、作者の表現の工夫を感じ取ることができた。

実践2「富士はどこだ！」

第1学年2学期

題材のねらい

葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
構図に着目し効果に気付かせ、作者の意図を考え表現の工夫を感じ取れるようにする。

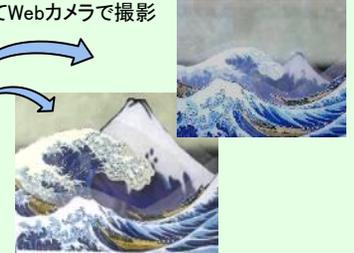
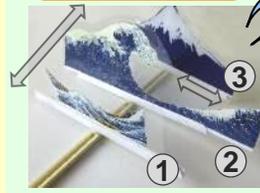
手立て① 教材の活用

教材

三つの部品を操作し、構図を確かめる教材

1. 近景①・中景②・遠景③の部品の操作
2. 重なり方を決めてWebカメラで撮影

教材「浪裏くん」



「浪裏くん」操作部分

①②前後 ③は前後左右に動く

生徒撮影画像

(Webカメラで撮影)

手立て② ねらいに迫る発問

発問

「なぜ、北斎は富士山や波をこの構図で描いたのだろう」

1. 北斎の「神奈川沖浪裏」の提示
生徒「えっ、これが、富士山か。」
2. なぜこの構図がワークシートに記述

富士山の雄大さなど畏敬の念

富士山から見た波と船の様子

富士山、波、船の構図の理由

結果

構図に着目し、効果に気付けた。 **100%**
構図の視点から作者の表現の工夫について感じ取ることができた。 **70%**

向上

課題

- ・教材で、教師の意図と異なる操作を行うことがあった。活動の目的に合うよう、教材の操作性などを厳選する必要がある。
- ・教材で感じた気づきを、自分の根拠として生かせない生徒がいた。教材の効果を意識した発問の精選が必要である。